

東アジアのなかの 『論語』

『論語』伝播の諸側面

京都大学人文科学研究所 教授 古勝隆一

西夏語訳『論語全解』について

—漢文化への傾倒

京都大学人文科学研究所 教授 池田 巧

平賀晋民の『論語』考釈

—徂徠一門に対する批判をめぐって

国立台湾師範大学国文学系 教授 金 培懿

2025

3.17[月] 10:30
16:00

聴講無料
要申込み

会場 学術総合センター内 一橋大学一橋講堂中会議場

※会場ではなくオンラインによる開催になる場合があります

聴講ご希望の方は、下記URLのフォームから氏名・連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）をご記入の上、お申し込みください。[2月28日(金)17:00 締切]。
受講票（ハガキ）をお送りいたします。（3月初旬から順次発送）

京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター
〒606-8265 京都市左京区北白川東小倉町47

E-mail kanseki-tokyo@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

URL <https://peatix.com/event/4051396>



セミナーお申し込み
フォーム

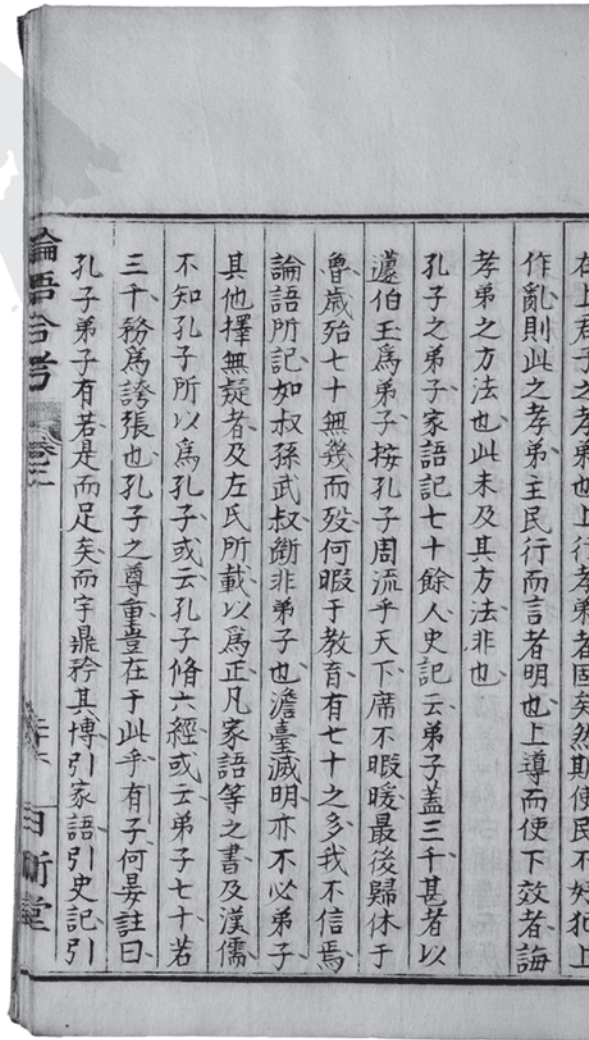
主催／京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター

○詳しくは裏面をご覧ください。

東アジアのなかの『論語』

◎今回の概要

孔子とその弟子たちの言行を記録した『論語』は、二千年以上にもわたり、さまざまにかたちをかえながら、東アジアの各地で読み継がれてきました。おそらく孔子の死後、その学派の継承者たちによって編纂された『論語』は、もともと竹簡に書かれたと想像されますが、その後、紙が普及すると紙に書かれ、さらには印刷され、中国の人々に読み継がれ影響を与えてきました。そして中国の人々ばかりでなく、周辺諸民族の言葉にも翻訳され、解釈されて、東アジア中にひろまっていきました。今回のセミナーでは、『論語』が東アジアの社会でどのように読まれ学ばれ、受け入れられていったのか、その多様な側面をご紹介しますと考えています。



●参加定員／200名(申し込み順)

*定員を超えた場合はお知らせします。

●申し込み期限／2月28日(金) 17:00 締切

*申し込みの詳細は表面をご覧ください。

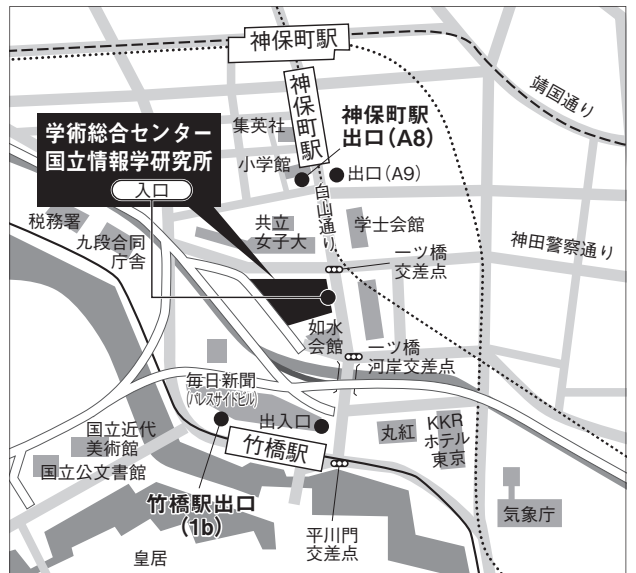
●プログラム

司会 野原将揮 (人文科学研究所准教授)

10:30~10:45	◎開会挨拶	人文科学研究所副所長 池田 巧
10:45~11:45	◎講演	『論語』伝播の諸側面 京都大学人文科学研究所 教授 古勝隆一
11:45~13:00	◎休憩	
13:00~14:00	◎講演	西夏語訳『論語全解』について—漢文化への傾倒 京都大学人文科学研究所 教授 池田 巧
14:00~14:20	◎休憩	
14:20~15:20	◎講演	平賀晋民の『論語』考釈—徂徠一門に対する批判をめぐって 国立台湾師範大学国文学系 教授 金 培懿
15:20~15:35	◎休憩	
15:35~15:55	◎質問への回答	
15:55~16:00	◎閉会挨拶	

●会場／学術総合センター内(千代田区一ツ橋2-1-2)

一橋大学一橋講堂中会議場



- 会場への交通機関
- ・東京メトロ半蔵門線
都営地下鉄三田線・新宿線
「神保町駅」A8出口より徒歩5分
- ・東京メトロ東西線「竹橋駅」
1b出口より徒歩5分
- 都営新宿線
- 都営三田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東京メトロ東西線
- 高速道路